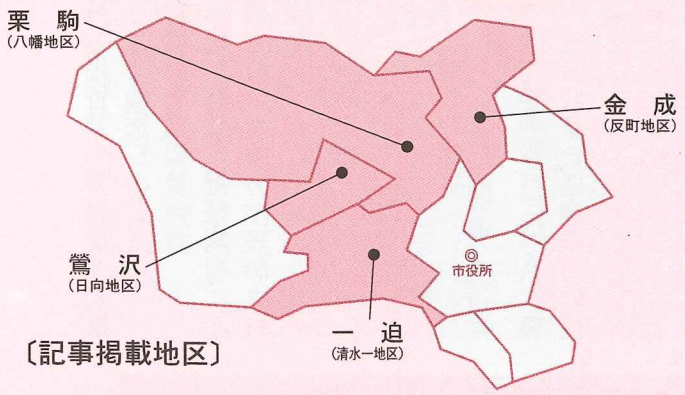
くりはらし
農業委員会だより

第6号
平成20年1月1日発行

共同作業の草刈りを終えて

一迫地区　清水一環境保全協議会のみなさん



〔記事掲載地区〕

主な内容

年頭の挨拶……2
活動報告……3
目指せ!!　栗原ブランド……4
おらほの活動（金成・鶯沢）……5
農業委員会からのお知らせ……6

発行：栗原市農業委員会　編集：栗原市農業委員会だより編集委員会

〒987-2293　宮城県栗原市築館薬師一丁目7番1号
TEL (0228)22－1184　FAX (0228)22－0316
メールアドレス　nogyoiinkai@kuriharacity.jp

年頭の挨拶

栗原市農業委員会
会長　千葉幸雄

新年明けまして おめでとうございます。

皆様には、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、農業委員会事業に温かいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、農地解放以来の農業政策の大変革が行われるとともに、ＥＰＡやＦＴＡによる諸外国の農産物の自由貿易に向けた動きの中で、米価の低迷にあえぎ、農業の将来に大いなる不安を覚える一年でありました。

関連諸国の穀物の生産の状況は、オーストラリアにおいては続く干ばつにより、米輸出大国から輸入国に政策転換し、また、ＥＵ諸国でも干ばつによる穀物生産の減少とバイオ燃料の原料生産が増加し、穀物の供給不足が懸念され、休耕停止の措置が継続されるなど穀物を生産する環境の変化がめまぐるしい中、諸外国の輸入農産物の安全安心にも、大きな問題が発生した年でもありました。

農業委員会は農業の将来を見据え、農家の皆様の声を国政に反映すべく、第51回宮城県農業委員大会において「米政策の確立に関する緊急要望」等を採択し、農業委員会系統組織とともに、農林水産大臣をはじめ関係機関に提出いたしました。

本年は農業委員の改選期となっており、時代が大きく変革する中、柔軟で多様な視点に立ちながら、農家の皆様とともに事業を進めて参りたいと考えているところであり、農家の皆様のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が皆様の幸多い年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

これまでの活動

市長・農業委員懇談会

８月７日、市長と農業委員の懇談会が開催されました。発言者からは、ほ場整備事業や品目横断的経営安定対策、農畜産物の栗原ブランド創りや遊休農地対策など、多くの意見・提言が出され、市長と活発な意見交換が行われました。

東北・北海道活性化フォーラム

８月30、31の両日青森県十和田市において、各道県から約１，１００人の農業委員参加のもと「農地と担い手を守り活かす運動の実効ある推進にむけて」をテーマに開催されました。

市町村農業委員会・ＪＡ農業者年金加入推進対策会議

９月20日、ＪＡビル宮城において農業者年金加入推進部長の会議が開催され、高橋馨一委員・佐々木弘委員・佐竹榮一委員が加入推進部長として参加しました。

第51回宮城県農業委員大会

11月14日、登米市祝祭劇場において開催され、次の方が表彰されました。

農林水産大臣表彰
千葉　幸雄（花山）

県農業会議会長表彰
門傳　勝壽（一迫）

大会では、経過報告に続き、「農地制度・政策改革と農業委員の役割」と題して、東京大学大学院の谷口信和教授による基調講演が行われました。また議事においては第１号議案から第６号議案について、さらに緊急提案として「米政策の確立に関する要望」が提案され、７件の全議案が可決されました。

標準小作料の改訂

12月５日、平成19年度標準小作料改訂に係る検討を行うため、小作料検討委員会（農委）の素案をもとに「小作料協議会」が開催されました。同協議会は、地区を代表する貸し手（10名）、借り手（10名）及び学識経験者（６名）という構成で、それぞれの立場の意見を参酌の上、標準小作料は12月21日農業委員会総会において審議・決定されました。

農業者年金に加入しましょう！　農業者年金は保険料の額を自由に決められる年金です。
詳しくは、農業委員会事務局へお問い合わせください。　電話２２－１１８４

活動報告

農地パトロール

現在、担い手の高齢化、後継者不足などから、耕作放棄や不作付けなどの遊休農地が増加しています。

栗原市農業委員会では、農林水産省が実施する「耕作放棄地防止適正管理実証化事業」の一環として、市内の耕作放棄地等の調査を11月5日から7日までの3日間にわたり行いました。

現状の調査

地区担当農業委員が事前に調査を行った荒廃の著しい農地を中心に、農地の利用状況と転用の状況について部会毎に実施し、現状を把握いたしました。今後の指導方法については、各部会で協議決定し、栗原市農業委員会会長名で指導若しくは改善を勧告し、是正を求めてまいります。

米価の下落など、農業情勢をとりまく環境はより厳しさを増してきておりますが、遊休農地の減少、無断転用防止のためにも、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

農地パトロールの様子

視察研修

－岩手県葛巻町－

第３農地部会

平成19年11月16日に先進地視察研修として、岩手県葛巻町にある、『くずまき高原牧場』が経営する木質バイオマスガス化による熱・電併給システムと、畜ふんバイオマスシステムを視察してまいりました。

葛巻町は、山間広陵地帯にあり、人口が8，140人で基幹産業は酪農と林業となっています。

木質バイオマスガス化による熱・電併給システムは、カラ松の間伐材をチップにして燃やし、ガス化して発電機を稼動させ、牧場内にある施設に電気と温水を送るものです。このシステムは、およそ100戸への電気供給が可能で、町内各地での建設が目標になっているとのことでした。

また、平成16年度フロンティア事業による畜ふんバイオマスシステムは、現在800頭いる牛のふん尿処理を行うもので、固形分は肥料に、ガスはメタンに精製して発電機を稼動させているとのことでした。

電気と温水は、農場で自家消費しているとのことでしたが、畜産を基幹産業としている葛巻町では、今後おおいに活用できるということでした。

環境問題で騒がれている昨今、大変意義のある視察研修でした。

木質バイオマスガス化による
熱・電併給システム

みんなで、読もう！　全国農業新聞　発行日　毎週金曜日　購読料／１ヶ月600円（送料込）
お申し込み・お問い合わせは　栗原市農業委員会事務局まで　電話22－1184

標準小作料が改訂されます。

◎標準小作料とは？

農地の貸し借りは原則的に賃貸借当事者で自由に契約することになっていますが、全く自由にしてしまうと貸し手と借り手の話がまとまりにくいため、農業委員会がその区域内の農地について自然的条件等に応じて小作料の標準額を定め、賃貸借当事者の小作料決定の目安としてもらうものです。

◎標準小作料の決め方は？

粗収益から、種苗費や肥料費、労働賃金等の生産費用と経営者報酬を差し引いて算出する土地残余方式を用いています。

◎いつから適用されるの？

この標準小作料は平成20年1月1日から平成22年12月31日までの3年間適用されます。ただし、著しい変動があった場合には、その都度見直しを行うものとします。

栗原市標準小作料

田の部

区分	小作料の標準額	基準収量	備　考
A	22,000円	542kg	520kg以上
B	18,000円	512kg	501kg～519kg
C	14,000円	483kg	471kg～500kg
D	11,000円	452kg	451kg～470kg
E	8,000円	426kg	421kg～450kg
F	6,000円	374kg	420kg以下

畑の部

区分	小作料の標準額	備　考
A	10,000円	集団的な畑地で土壌、日照、道路、傾斜度等耕作条件が良く、生産性が高い畑
B	6,000円	集団性に乏しく、土壌や傾斜度、農業生産性が中程度の畑
C	3,000円	耕土が浅く、傾斜度がやや大きく、道路・日照・形状等の耕作条件が劣る、獣害の恐れのある畑

※詳しくは、「栗原市標準小作料改訂のお知らせ」をご覧ください。

目指せ!! 栗原ブランド(5)　栗駒もち加工組合

栗駒八幡地区にある「栗駒もち加工組合」は、昭和62年からもち菓子製造小売をしています。

昭和62年当時、減反が進み米の収入が減り、何かを始めようと思った現組合長の吉尾三郎さんが仲間に声を掛け、始めたのが餅の製造加工販売でした。

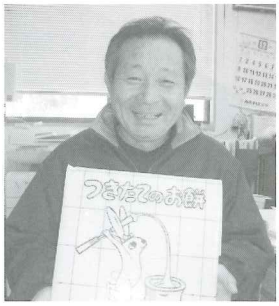
創業当初は、自宅の作業場を改修し、切り餅の製造のみを行っていましたが、平成7年に県の事業を活用し新しく農産加工場を建設、翌年には「栗駒切りもち」が宮城県推奨品の認定を受けました。

切りもちの袋詰め作業をしている様子

栗駒もち加工組合が製造している餅は、原料に自らが育てた「みやこがねもち米」を100%使用し、杵つきで仕上げており、質が良くコシがあり美味しいと評判で、ここの餅しか食べないという人もおり、全国から注文があります。

最盛期を迎える11月末から12月末には、1日に20俵つくそうで、お正月にはかかせない鏡餅の製造も行っており、ゆうパック等で全国各地に発送されています。

現在、餅に入っているゴマやマメは地元で採れたものを使用しているが、今後は、すべての製品に地元のものを使い、安心・安全を提供していきたいと話していました。



のし餅を紹介する組合長の吉尾三郎さん

農業者年金に加入しましょう！　農業者年金は農業者の方なら広く加入できる年金です。
詳しくは、農業委員会事務局へお問い合わせください。　電話22－1184

おらほの活動
～新農政への取り組み～

金成ソリマチ営農組合
（集落営農活動）

収穫祭の様子

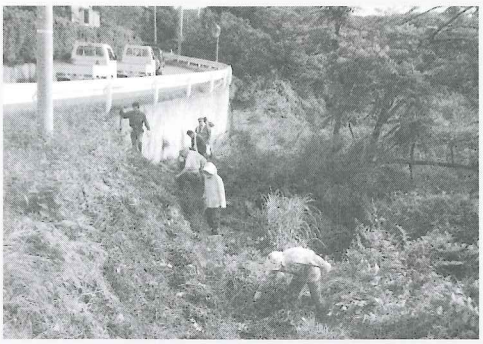
稲作と畜産の複合経営が多い金成反町地区は、山間地のため沢田が多く基盤整備が進まない地区ですが、自分たちの集落を守ろうという考えから、平成18年の春に準備委員会を立ち上げました。そして会議や研修を重ね、農作業の受託料金や会計方法を整備し、平成18年11月19日に行われた総会で承認され「ソリマチ営農組合」を設立しました。

当初、17戸の農家で構成されていた組合も現在では23戸に増え、春作業から秋作業までの共同作業に取り組んでいます。

また、昨年の12月には収穫の無事を祝い、地区の集会所で収穫祭を行いました。

現在の米の価格では、今後も組合を続けていけるか非常に心配というのが本音ですが、これからは自分たちの集落の地形に合った機械等を揃え、法人化に向けた活動を続けていきたいと思います。

（ソリマチ営農組合　熊谷　剛）


共同作業による環境整備

鶯沢日向地域環境保全会
（農地・水・環境保全活動）

用水路の草刈り作業

鶯沢日向地区の総世帯数は90戸あり、第1種・第2種兼業農家が主体で全体の80％を占めています。また、活動の農用地は約111haあり、耕地の約85％は土地改良事業が済んでいます。

活動は計画を元に、農地法面の補修、水路の江払い、きめ細やかな草刈、農道の砂利補充、さらには側溝の補修など様々な活動に取り組みました。

また、遊休農地の解消に努めるため、農作業が一段落した10月中旬から役員が先頭に立ち、不在住の地権者と話し合って農地を借り受け、環境美化活動の一環として花を植栽することになりました。猫柳などが繁茂・密生した水田を根こそぎ掘り起こし、トラック20台分の土を購入しての盛土や施肥などの作業を行い、早朝よりみんなで葉ボタンとパンジーの植栽を行いました。

今、過疎化や高齢化が進行し農地や農業用水などの農業資源を守るまとまりが弱まっており、地域の新たな有り方が問われています。地域住民の理解ある協力で、これからも地域共同活動の取り組みを推進していきたいと思います。

（鶯沢日向　高橋大石）

葉ボタンとパンジーの植栽

みんなで、読もう！　全国農業新聞　発行日　毎週金曜日　購読料／１ヶ月600円（送料込）
お申し込み・お問い合わせは　栗原市農業委員会事務局まで　電話22－1184

農業委員会からのお知らせ

農地基本台帳調査について

農地基本台帳は、農業委員会が農家の台帳を備えて、農業に従事している方や農地の状況などを正しく把握することにより、いろいろな手続きをするときや各種証明書の根拠資料として整備しております。また、品目横断的経営安定対策においても農地面積などの算出基礎になります。正確な台帳を期すための調査ですので、ご協力をお願いします。

※　調査表は、行政区長さん経由で配布されます。
記載例を参考に記入していただき、１月７日(月)までに各地区の行政区長さんが回収いたしますので、返信用封筒に入れてお渡しください。

農業委員会委員選挙人名簿登載申請をお忘れなく

平成20年７月は、農業委員会委員選挙が行われますので、必ず申請してください。なお、農業委員会委員選挙人名簿登載申請は、平成20年１月１日現在において下記の要件を満たす方が対象です。

資格の要件

○栗原市に住所を有する人
○年齢20歳以上の人（昭和63年４月１日以前に出生した方）
○1,000㎡以上の農地で耕作を営む人
○上記の耕作を営む人の同居親族または、配偶者で年間60日間以上耕作に従事している人
（農地を1,000㎡以上所有していても、実際に耕作していなければ資格はありません。）

※　申請書は対象世帯に行政区長さん経由で「農地基本台帳調査表」と一緒の封筒で配布されます。記載例を参考に記入していただき、１月７日(月)までに各地区の行政区長さんが回収いたしますので、返信用封筒に入れてお渡しください。

贈与税納税猶予の継続届と不動産取得税徴収猶予の延長届の提出を

農地の生前一括贈与で、贈与税の納税猶予と不動産取得税の徴収猶予を受けている方は、３年ごとにそれぞれ継続するための届け出が必要です。

１月31日(木)に、築館税務署と栗原県税事務所から対象者あてに届出書が送付されます。必要事項を記入し、２月15日(金)までに各総合支所産業建設課へ提出ください。

編集後記

先日、中学生になる長男の三者面談があり、学校での生活の様子、学業、進路の話があった。

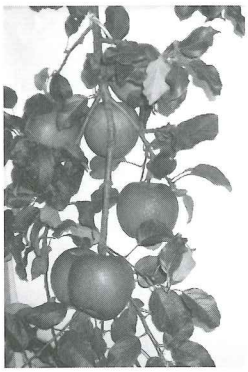
我家は専業農家だが、今の農業を巡る情勢を考えると農業収入の大幅な減少、減反の増加など、農業を継がせる気にならないのが本音である。

土台のしっかりとした農業経営を作り上げて子供にバトンタッチするのが親の役目だと思うが・・。と言っても今は前へ進むしかない。

現在、経営所得安定対策の見直しが進められており、現場の声を農政に活かし、より良い対策に作り上げなければならない。

私達農業委員も更なる農業振興・発展のため努力していかなければと思う。

（及川　正一）



農業委員会事務局の窓口を飾る金成小堤果樹組合のリンゴ

農業者年金に加入しましょう！　農業者年金は自分の年金原資を自分で積み立てる、積立方式の確定拠出型年金です。
詳しくは、農業委員会事務局へお問い合わせください。　電話２２－１１８４